

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道(1階)		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1		
自己評価作成日	平成26年1月15日	評価結果市町村受理日	平成26年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&JiyosyoCd=2271100923-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成26年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様の入れ替えがあり、今まで生活されていた方と、新しく入居された御利用者様お互いにストレスを感じられていると思います。スタッフが関わることで、そのストレスを少しでも少なくできるように、アセスメントの時期より一人ひとりの御利用者様のことを知り、どこまでケアをすればその人らしく、自立が出来た生活が送れるのかを探っていくようにする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年度は各階2~3名の新規利用者があり、息を弾ませて散歩から戻る「ただいま」の声にフロアも活気づきます。ADLの差が歴然とする中でそれぞれの想いに寄り添うため、独自のアセスメント表で利用者理解を深めることに力を入れています。"ケアに対する要望や想いを実際に聞く、といった具現化できる情報や日頃の気づきを記録し、ユニット会議には各階リーダーが同席することで、「職員全員で27人を見ていこう」といった空気が生まれ、ユニット間の壁がなくなっています。快く来客を迎え入れ、自室を案内する利用者の屈託のない笑顔は、理念通りの『利用者の立場に立ったケア』に裏打ちされたものであることが覗えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝朝礼や会議の時など職員全体で理念を唱和している。職員のみ使用する場所にも掲示し、いつも意識できる様にしている。	理念は目につきやすい場所に掲示し、朝礼で唱和することにより意識統一しています。『気づきを築く』の言葉通り、記録には必ず個々の気づきを記入する仕組みがあり、全職員で共有しケアに活かされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	天気の良い日には、外へ散歩へ行き、近所の方々に挨拶するようにしている。地区の祭りや防災訓練にも積極的に参加するように努めている。	散歩途中で声をかけあう風景が日常的になり、防災訓練には毎回参加しています。回覧板を目にした利用者から「行きたい」との声が上がり、10名以上が地区のお祭りにも出かけています。エコ活動も継続され牛乳パック回収は小学校にも協力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を利用し、介護相談を常に受けられるようにしている。地域の中での取り組みを増やし、もっと地域貢献について取り組んでいきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、活動報告や日々の生活など参加していただいた皆様より意見を頂戴し、すぐに実践できる様に努めている。	市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、家族2~3名、利用者4~5名の出席が叶い、定期開催されています。介護相談に応じたり、家族からは「行事を前もって知らせてもらえれば見に来たい」との意見があがり速やかに実施していることが会議録から確認できました。	介護相談や認知症への理解といった運営推進会議の研修に地域の人も呼びかけ、より充実した会議となることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	営業活動時間をスケジュールに組み込み関係作りに向け、働きかけている。	運営推進会議への出席もあり、2ヶ月ごと開催されるグループホーム連絡協議会やケアマネ連絡協議会では事例検討を通じて情報交換に努めています。認知症キャラバンメイトへの協力要請や月に一度介護相談員の訪問もあります。	協力要請もあることから、サポーター養成講座でさらに連携が深まることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束についての研修を行っている。意思統一をはかり出来る限り入り口の施錠をしない様に取り組んでいる。	施錠やフィジカルロックもありませんが、在宅では夜間不眠で薬に頼らざるを得なかった人が、日中の生活を見直すことで服用しなくても眠れるようになった例があります。言葉については無意識にでしてしまうこともあるため、気づいた時にはその場で注意合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての理解をスタッフ全員が深める必要があると思う。研修を行い、常に意識できる様にしていきたい。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議にて研修を行っているが、今後は、知識を深められるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をして、理解や納得を得られるように時間をかけている。書面でも確認し、承諾を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族様アンケートを定期的実施している。ケアプランの説明の際、ご意見や要望を聞く機会を作り、玄関に意見箱を設置している。対応も速やかに出来る様に努めている。	運営推進会議や法人内アンケートでは忌憚ない意見が寄せられ、清掃面での苦言もあり改善につなげています。各階ごと『はまかぜ通信』に担当職員からのコメントが添えられ、様子がよくわかると喜ばれています。遠方の家族には状態変化もこまめに連絡しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議で直接意見や提案を聞く機会を設けている。個人面談など定期的に行っている。	会議の場では発言に消極的な職員もいますが、現場で共に働いていたことのある管理者には日頃から直接の進言がみられます。また、フロアリーダーが協力し合い、元気がないと感じられる職員には随時面談の機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に職員の評価を実施し、個人面談を行い、課題の共有、今後の目標作りを行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	全体会議で職員研修を行うようにして、外部の研修にも参加出来るようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡会に毎月参加している。職員間の交流する機会は今後の課題である。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	担当のスタッフがアセスメントに御自宅に伺い、ケアプランを作成している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様のお話をよく聞く時間を設けて、説明を行い、サービスを導入するにあたり、円滑に進むように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その方にあつたサービスを提供できるように多方面に視点を向け、ホーム内のみで完結しないサービス提供を目指している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯など、その人それぞれが出来ることを行っただき、役割を持っていただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族様と連絡をとりやすいように、日頃から関わり方に留意し、必要に応じて協力を願うようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	出来る限り今までの馴染みの方や場所を継続できるように努めている。	新規入居者のもとへ「最近顔を見ないけど…」と心配して訪れる知人や友人が増えています。年賀状を出す支援やお正月に自宅でゆっくり過ごす人、畑の野菜作りや草取りの継続、年に一度の餅つきに指南を行う人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	横の繋がりを大切にして、関係作りをするとともに、リビングでボール遊びや歌を唄ったりと、皆で過ごす時間も大切にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	手紙や年賀状などのやり取りをしていて、関係を大切にしたいと心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	御利用者様の各担当者が本人に思いや意志を聞き、困難な場合は月1回のユニット会議で方針を話す機会を作っている。	アセスメントは3ヶ月ごとに見直し、担当ごとに『気づきシート』へ記載しています。“ケアに対する要望や思いを実際に聞いてみる。”といった項目で、本人の言葉や細かい気づきが記録され共有化しています。新規利用者には毎日のようにアセスメントを行い、理解を進めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様にも協力をお願いして、その方の情報を取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録をとり、その方に応じた声掛けをしている。スタッフ同士でも申し送りを行い、情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご利用者様、ご家族様に希望を必ず聞き、ユニット会議に反映できるようにしている。	3ヶ月ごとに各階リーダーも同席するユニット会議にて、ケアプランチェック表と気づきシートをもとにカンファレンスを行っています。各ユニットの計画作成担当者がプラン化したものをケアマネージャーがチェックし、家族に提示して意見や要望を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ユニット会議時、担当スタッフがホーム独自の気づきシートを記入し、ご利用者様のニーズを聞き、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者がより良い生活が送れるようスタッフで心がけています。サービスもいろいろな視点から向上に努めていきます。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を活用できるように心がけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続しておられる方もいらっしゃる、希望のかかりつけ医に診て頂く事が出来るように支援・相談している。	月2回の往診と24時間連絡が取れる体制にあり、6割の人が協力医に変更しています。かかりつけ医の受診は家族にお願いし、結果は受診報告書と介護記録に記載しています。週2回以上看護師の訪問があり、気軽に相談でき異常の早期発見に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調管理には十分に注意し、看護職がみえた時は、情報や気づきを伝え、指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	情報の交換に出向き、把握に努めるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居される前に書面で説明し、確認をとれるようにしている。	契約時に『重度化の指針』として書面をもって説明を行い、看取りの受入れが困難であることへの理解を得ています。緊急時の対応はマニュアルとして職員間で周知しています。状態変化によって家族の気持ちも揺れますが都度相談を重ねていく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に勉強会を実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を定期的実施備えている。地域との協力も今後充実させている。	年2回実施し、地域の防災訓練にも利用者に参加しています。軽度の利用者が増えたこともあり、階段を利用した訓練を重ねた結果、時間短縮ができています。管理者自ら防災研修を受講し、人員の少ない時の避難方法をシミュレーションして職員に伝達しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けに対して、十分注意するように心がけています。	気づきシートを活用して一人ひとりに合った声かけができています。トイレ内の排泄用品はレースカーテンで目隠しされ、プライバシーへの配慮が視えます。入室では必ずノックして「失礼します」と声をかけようとの指示が徹底され、同性介助の希望にも応えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の洋服選びや食事外出時の洋服選びを自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースでの生活を大切に利用者様の希望に耳を傾けるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個人個人洋服を選んだり、化粧をされたり、その人らしい身だしなみができる様支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日個人の力に合わせ食材を切ったり、米を研いだり食器を洗ったり拭いたりしていただいている。	朝夕のご飯と味噌汁は各ユニットで作りますが、法人本部のメニューに従い専任職員が1階で調理しています。職員も食卓を囲み同じ食事を摂ることで、ゆったりした時間が担保されています。誕生会には手作りケーキでお祝いし、外出先では新鮮な海の幸を堪能しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人個人に合わせ、口腔ケアの声掛け誘導、介助を実施している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各人の排尿ペースを把握し、その方に合った排泄介助が行えるように努めている。	自宅で失敗が多かった人も、適切な声かけにより布パンツで過ごせています。失敗をおそれ羞恥心からリハパンを使う人もいますが無理強いせず本人の安心感を優先しています。便秘対策には、薬に頼らず体を動かすことから取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の散歩や、体操などに取り組み、水分量をチェック表で管理している。10時に牛乳を提供し、個々に応じては別の時間帯に乳製品を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々の希望時間に対応し、声掛けをしている。	週3~4日をめやすとし、湯は毎日準備し一人ひとり張りかえています。心地よさに向け好みや皮膚の状態に応じたシャンプーや石鹸を使用しています。入浴拒否のある人には時間や人を替えて誘い、時間にとらわれず、入浴したい気分を逃さないよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣に合わせた個々の休憩時間・就寝時間に対応している。居室の温度管理、加湿など季節に応じて対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	毎月のユニット会議で薬について確認を必ず行っています。薬の変更があった際には、必ず申し送りを行い、変更日もわかるように記録をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々と日常会話をしながら、力を引き出せるようなケアプラン作りを目指している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	その方の希望に沿って出来る限り実施出来る様に協力をしながら支援している。地域のお祭りなど、協力もあり参加している。	天気が良ければ毎日散歩に出かけています。「行きたい」想いに寄り添い、海岸での喫煙を楽しむ人もいます。伊豆長岡まで足を延ばしたり、桜、紅葉と季節を愛でる外出は恒例です。いちご狩りは家族とも楽しめて好評でした。掲示の登山計画に沿って機能訓練に励む利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に個人のお小遣いに関しては事務所にて管理をしているが、個人的に管理をされている方もいる。又、買い物に行く際には、支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話を使いたい時には、その都度対応している。手紙の希望が聞かれた際には、ポストまで一緒に行くなど、随時対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いた空間作りを目指し、掲示係を選出し、季節感のある掲示を行っている。散歩中に花を摘み、一緒に利用者様と飾っている。ほうきやちりとりを手の届きやすいところに置き、誰でも使いやすいように工夫している。	食事とくつろぎのスペースが分けられ、取組んだぬり絵作品が誇らしげに掲示されています。トイレには『お手洗い』『トイレ』『便所』の表示があり、個々に馴染んだ呼び方ができています。清掃は利用者で行い、感染症予防のためコンタクトポイントは一日に二度消毒されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにソファを設置し仲の良い方が話をしたりしている。廊下の奥でもゆっくりと過ごせるようにソファを置き工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるかぎり使い慣れた物や家具を入居時に持ってきていただくようにしている。整理整頓にも気を配るようにし、清潔に保つようしている。	ベッドの向きや箆箭の位置は、在宅での自室と重なる配置とし、落ち着くまでは環境面に配慮しています。愛犬との暮らしを再現するかのようになり、思い出の写真やぬいぐるみに囲まれた居室を笑顔で案内してくれる人もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレなどが使いやすいように工夫している。自発的に掃除や読書ができる様に、環境に工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道(2階)		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1		
自己評価作成日	平成26年1月15日	評価結果市町村受理日	平成26年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&jiyosyoCd=2271100923-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成26年1月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様の入れ替えがあり、今まで生活されていた方と、新しく入居された御利用者様お互いにストレスを感じられていると思います。スタッフが関わることで、そのストレスを少しでも少なくできるように、アセスメントの時期より一人ひとりの御利用者様のことを知り、どこまでケアをすればその人らしく、自立が出来た生活が送れるのかを探っていくようにする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年度は各階2~3名の新規利用者があり、息を弾ませて散歩から戻る「ただいま」の声にフロアも活気づきます。ADLの差が歴然とする中でそれぞれの想いに寄り添うため、独自のアセスメント表で利用者理解を深めることに力を入れています。"ケアに対する要望や想いを実際に聞く、といった具現化できる情報や日頃の気づきを記録し、ユニット会議には各階リーダーが同席することで、「職員全員で27人を見ていこう」といった空気が生まれ、ユニット間の壁がなくなっています。快く来客を迎え入れ、自室を案内する利用者の屈託のない笑顔は、理念通りの『利用者の立場に立ったケア』に裏打ちされたものであることが覗えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社全体とホーム独自の理念があり、朝礼の際に唱和をして共有し、実践に向けて取り組めるようにしている。	理念は目につきやすい場所に掲示し、朝礼で唱和することにより意識統一しています。『気づきを築く』の言葉通り、記録には必ず個々の気づきを記入する仕組みがあり、全職員で共有しケアに活かされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	一部の入居者様に限ってしまっているが、地域の祭りや防災訓練に参加し、地域との交流を図るようにしている。	散歩途中で声をかけあう風景が日常的になり、防災訓練には毎回参加しています。回覧板を目にした利用者から「行きたい」との声が上がり、10名以上が地区のお祭りにも出かけています。エコ活動も継続され牛乳パック回収は小学校にも協力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を行い、地域の方々にも参加の声掛けを行っている。現在は、運営推進会議が中心となっているので、新たな方策も取り組んでみたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ホーム側から話をするのみでは、なかなか伝わらない部分もあるので、写真を使い、プロジェクトで流している。御家族様にも好評である。	市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、家族2~3名、利用者4~5名の出席が叶い、定期開催されています。介護相談に応じたり、家族からは「行事を前もって知らせてもらえれば見に来たい」との意見があがり速やかに実施していることが会議録から確認できました。	介護相談や認知症への理解といった運営推進会議の研修に地域の人も呼びかけ、より充実した会議となることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	ホームの責任者が主となり、連絡を取っている。顔なじみの関係が作れていると思うが、今後はより密に協力関係を築けるようになっていきたい。	運営推進会議への出席もあり、2ヶ月ごと開催されるグループホーム連絡協議会やケアマネ連絡協議会では事例検討を通じて情報交換に努めています。認知症キャラバンメイトへの協力要請や月に一度介護相談員の訪問もあります。	協力要請もあることから、サポーター養成講座でさらに連携が深まることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束をしないケアを行うとともに、全体会議の議題として取り組み、皆で知識を深めるようにしている。	施錠やフィジカルロックもありませんが、在宅では夜間不眠で薬に頼らざるを得なかった人が、日中の生活を見直すことで服用しなくても眠れるようになった例があります。言葉については無意識にでしてしまうこともあるため、気づいた時にはその場で注意合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議の議題として皆で知識を深めるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議の議題として皆で知識を深めるようにしているが、今後は知識をもっと深められるようにしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結の際に、十分な時間を設けて、理解・納得をしていただけるように努め、サービスを利用してから不安が少しでも軽減するように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートを実施し、意見を直接頂く機会を設けるとともに、日頃接していく中で、意見を言っていただけるような関係が築けるようにしている。	運営推進会議や法人内アンケートでは忌憚ない意見が寄せられ、清掃面での苦言もあり改善につなげています。各階ごと『はまかぜ通信』に担当職員からのコメントが添えられ、様子がよくわかると喜ばれています。遠方の家族には状態変化もこまめに連絡しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員アンケートを実施し、職員の意見を頂いている。	会議の場では発言に消極的な職員もいますが、現場で共に働いていたことのある管理者には日頃から直接の進言がみられます。また、フロアリーダーが協力し合い、元気がないと感じられる職員には随時面談の機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	文章や書面を活用し、会社内の伝達事項をクリアに職員に伝えていると思う。改善が必要な箇所に関しては、職員アンケートなどを利用して会社に意見を伝えていければと思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職のスタッフに関しては、新人研修マニュアルを作成し、上長と面談をしながら進捗の状況を共有している。その後はOJTでトレーニングしていく。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域で行われている研修にはなるべく参加するようにしている。職員間の交流までは行っていない。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、アセスメント表を使用し、情報を集中的に集めるようにしている。関わる時間を増やして、初期の段階で信頼関係を築けるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の段階で、御家族様と話をする時間を多く作るようにして、困っていることや不安に思っていることを話していただけるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	16で記入をした通り、現状で必要としているケアを行えるようにしている。他のサービスも可能な限り検討するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ホームでの主役は入居者で、それを支えるのがスタッフということを事あるごとにスタッフに伝え、一方の立場におかないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居をしたからということとは全く無く、入居をされてからも、家族という絆は常に意識し、御家族様のニーズもケアの中に取り入れているようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族様と協力しながら、関係が途切れないようにしているが、出来ている方は少ないと思うので、なるべく多くの方に対応出来るようにしていきたい。	新規入居者のもとへ「最近顔を見ないけど…」と心配して訪れる知人や友人が増えています。年賀状を出す支援やお正月に自宅でゆっくり過ごす人、畑の野菜作りや草取りの継続、年に一度の餅つきに指南を行う人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の言っていることに耳を傾け、人間関係でストレスを感じないようにスタッフで情報を共有しながら対応している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応・相談している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望に沿えるように、ニーズを聞き出し、対応している。	アセスメントは3ヶ月ごとに見直し、担当ごとに『気づきシート』へ記載しています。“ケアに対する要望や想いを実際に聞いてみる。”といった項目で、本人の言葉や細かい気づきが記録され共有化しています。新規利用者には毎日のようにアセスメントを行い、理解を進めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族様に情報を提供していただいたり、以前利用されていたサービスの事業所とも連絡をとり、情報を許される範囲で提供していただき、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りの時間を割り、スタッフ間で情報の共有をしっかりと行えるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	御本人様や周りの方々と情報交換をしながら、ホーム内のみで完結してしまわないような介護計画を作成するよう努めている。	3ヶ月ごとに各階リーダーも同席するユニット会議にて、ケアプランチェック表と気づきシートをもとにカンファレンスを行っています。各ユニットの計画作成担当者がプラン化したものをケアマネージャーがチェックし、家族に提示して意見や要望を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日報も、必ず全員について記録を残すようにして、実践や介護計画の見直しに活かすようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内が主となるが、ニーズが多様化している際には、地域資源も積極的に利用するよう目指している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在は、買い物や散歩の際に地域資源を利用している。しかし、まだ活用しきれていない部分が多様にあると思うので、利用するよう目指していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	サービス利用前からのかかりつけ医を利用されている方もおられ、御本人様や御家族様の希望に沿った受診を行っている。	月2回の往診と24時間連絡が取れる体制にあり、6割の人が協力医に変更しています。かかりつけ医の受診は家族にお願いし、結果は受診報告書と介護記録に記載しています。週2回以上看護師の訪問があり、気軽に相談でき異常の早期発見に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連絡ノートを利用したり、申し送りの時間を設けて、相談をしている。電話連絡も随時行い、適切な指示を得るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的に病院を回り、関係作りに努めている。入院をされた方が出た場合にも、介護サマリーを早期に作成し、情報の交換に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居の際に、指針を説明させて頂き、了解を得るようにしている。しかし、御家族様のニーズの中で、ターミナルケアも増えていると思うので、検討したいと思う。	契約時に『重度化の指針』として書面をもって説明を行い、看取りの受入れが困難であることへの理解を得ています。緊急時の対応はマニュアルとして職員間で周知しています。状態変化によって家族の気持ちも揺れますが都度相談を重ねていく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に全体会議の場で急変や事故発生時の対応について研修をする場を設けている。会社全体としてもマニュアルを作成し、フロア内に掲示している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	ホームで年2回防災訓練を行っている。しかし、最近では、地域の方の参加が減っているので、検討が必要であると思われる。	年2回実施し、地域の防災訓練にも利用者に参加しています。軽度の利用者が増えたこともあり、階段を利用した訓練を重ねた結果、時間短縮ができています。管理者自ら防災研修を受講し、人員の少ない時の避難方法をシミュレーションして職員に伝達しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	誇りやプライバシーに配慮をした対応や声掛けを目指している。	気づきシートを活用して一人ひとりに合った声かけができています。トイレ内の排泄用品はレースカーテンで目隠しされ、プライバシーへの配慮が視えます。入室では必ずノックして「失礼します」と声をかけようとの指示が徹底され、同性介助の希望にも応えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	御本人様と接していく中で、思いや希望が聞けたなら、記録に残し情報を共有している。その際、自己決定出来る様な働きかけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居の際に、以前生活をされていたペースを伺い、習慣や一人の時間など、御本人様のペースで生活出来るように目指している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい身だしなみが全員出来ているとは思わないが、意志を聞き、その人らしく生活出来るように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しみにされている方が多いので、出来る範囲の事はスタッフと一緒に準備や片付けを行っている。	朝夕のご飯と味噌汁は各ユニットで作りますが、法人本部のメニューに従い専任職員が1階で調理しています。職員も食卓を囲み同じ食事を摂ることで、ゆったりした時間が担保されています。誕生会には手作りケーキでお祝いし、外出先では新鮮な海の幸を堪能しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を活用し、スタッフは情報を得ようとしている。摂取量が少ない方には補食などの個別の対応も行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後行っている。訪問歯科も来て頂き、口腔内の清潔に努めるようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にパットを利用したり、スタッフが出来ることまで行わないように、その人に合った排泄を行えるようにしている。	自宅で失敗が多かった人も、適切な声かけにより布パンツで過ごせています。失敗をおそれ羞恥心からリハパンを使う人もいますが無理強いせず本人の安心感を優先しています。便秘対策には、薬に頼らず体を動かすことから取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	下剤を安易に使用しないように努力している。食事・運動など、生活のリズムを整えるように努力している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の状態をチェックし、なるべくゆったりと入浴の時間を楽しんでいただけるように支援をしている。	週3~4日をめやすとし、湯は毎日準備し一人ひとり張りかえています。心地よさに向け好みや皮膚の状態に応じたシャンプーや石鹸を使用しています。入浴拒否のある人には時間や人を替えて誘い、時間にとらわれず、入浴したい気分を逃さないよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間生活についても、その人それぞれのリズムがあることを意識し、その人のリズムに合った夜間生活を送っていただけるように努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診などで薬が変化や増減した際には、報告書を作成し、情報の交換に努めている。内容や副作用、用法や用量についても、薬の情報書に目を通し、把握するようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活リハビリを中心として、残存機能を活用をした役割作りをしている。出来ない所に関しては、スタッフが支援する事で、出来る様にしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	御本人様と話をしていく中で、スタッフと一緒に散歩や買い物等、出かける時間を作っている。	天気が良ければ毎日散歩に出かけています。「行きたい」想いに寄り添い、海岸での喫煙を楽しむ人もいます。伊豆長岡まで足を延ばしたり、桜、紅葉と季節を愛でる外出は恒例です。いちご狩りは家族とも楽しめて好評でした。掲示の登山計画に沿って機能訓練に励む利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームでお小遣い帳を作成し、管理をしている。御本人様でお金の所持を希望されている方に関しては、所持して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様の希望で携帯電話を使用されている方もいらっしゃいますし、希望が聞かれる方に関しては、電話を御家族様にかけている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じて頂ける様な装飾を施したり、利用者様が過ごしていたような頃のフロア作りにも努めている。	食事とくつろぎのスペースが分けられ、取組んだぬり絵作品が誇らしげに掲示されています。トイレには『お手洗い』『トイレ』『便所』の表示があり、個々に馴染んだ呼び方ができています。清掃は利用者で行い、感染症予防のためコンタクトポイントは一日に二度消毒されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者様同士では一緒に過ごす空間は作れていると思うが、一人となると、なかなか空間の演出が出来ていないと思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際に御家族様に御願いをして、出来る範囲で使い慣れている物を持ってきて頂く様にしている。	ベッドの向きや箆笥の位置は、在宅での自室と重なる配置とし、落ち着くまでは環境面に配慮しています。愛犬との暮らしを再現するかの様に、思い出の写真やぬいぐるみに囲まれた居室を笑顔で案内してくれる人もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内に危険な箇所が無いかがスタッフが見守りをしていくと共に、安全な空間を演出するよう努めている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2271100923		
法人名	メディカル・ケア・サービス株式会社		
事業所名	愛の家グループホーム沼津我入道(3階)		
所在地	静岡県沼津市我入道江川5-1		
自己評価作成日	平成26年1月15日	評価結果市町村受理日	平成26年2月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2010_022_kami=true&jiyosyoCd=2271100923-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡県葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成26年1月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

御利用者様の入れ替えがあり、今まで生活されていた方と、新しく入居された御利用者様お互いにストレスを感じられていると思います。スタッフが関わることで、そのストレスを少しでも少なくできるように、アセスメントの時期より一人ひとりの御利用者様のことを知り、どこまでケアをすればその人らしく、自立が出来た生活が送れるのかを探っていくようにする。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本年度は各階2~3名の新規利用者があり、息を弾ませて散歩から戻る「ただいま」の声にフロアも活気づきます。ADLの差が歴然とする中でそれぞれの想いに寄り添うため、独自のアセスメント表で利用者理解を深めることに力を入れています。"ケアに対する要望や想いを実際に聞く、といった具現化できる情報や日頃の気づきを記録し、ユニット会議には各階リーダーが同席することで、「職員全員で27人を見ていこう」といった空気が生まれ、ユニット間の壁がなくなっています。快く来客を迎え入れ、自室を案内する利用者の屈託のない笑顔は、理念通りの『利用者の立場に立ったケア』に裏打ちされたものであることが覗えました。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所に理念を設け、職員理念を共有し、日々のケアにつなげ、また朝礼での唱和で意識付けしている。	理念は目につきやすい場所に掲示し、朝礼で唱和することにより意識統一しています。『気づきを築く』の言葉通り、記録には必ず個々の気づきを記入する仕組みがあり、全職員で共有しケアに活かされています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域との交流は大切にし、祭り防災訓練等に参加している。	散歩途中で声をかけあう風景が日常的になり、防災訓練には毎回参加しています。回覧板を目にした利用者から「行きたい」との声が上がり、10名以上が地区のお祭りにも出かけています。エコ活動も継続され牛乳パック回収は小学校にも協力しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回行われている運営推進会議で地域の方々に参加して頂き、認知症の理解や支援について勉強の時間を設けている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議の中では、現在の状況などを伝え、日頃の様子をプロジェクターにして見て頂き、最後には必ず質問の時間や感想を聞き、その意見を今後のサービスに活かしていけるように努めている。	市担当者、地域包括支援センター職員、民生委員、家族2~3名、利用者4~5名の出席が叶い、定期開催されています。介護相談に応じたり、家族からは「行事を前もって知らせてもらえれば見に来たい」との意見があたり速やかに実施していることが会議録から確認できました。	介護相談や認知症への理解といった運営推進会議の研修に地域の人も呼びかけ、より充実した会議となることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	会議への参加の声掛けを行っている。又、介護指導員の受け入れにより、客観的な意見を頂けるように努めている。	運営推進会議への出席もあり、2ヶ月ごと開催されるグループホーム連絡協議会やケアマネ連絡協議会では事例検討を通じて情報交換に努めています。認知症キャラバンメイトへの協力要請や月に一度介護相談員の訪問もあります。	協力要請もあることから、サポーター養成講座でさらに連携が深まることを期待します。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で認識を持ち、拘束しないケアに取り組んでいる。	施錠やフィジカルロックもありませんが、在宅では夜間不眠で薬に頼らざるを得なかった人が、日中の生活を見直すことで服用しなくても眠れるようになった例があります。言葉については無意識にでしてしまうこともあるため、気づいた時にはその場で注意合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体会議や日々の中でその情報についての情報を集め、今後活かせるように防止に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議等で学ぶ機会を持ち、今後活かせるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては、担当者が十分な説明や時間を設けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様アンケートを実施し、意見や要望を伺い、今後の運営やケアに活かせるようにしている。	運営推進会議や法人内アンケートでは忌憚ない意見が寄せられ、清掃面での苦言もあり改善につながっています。各階ごと『はまかせ通信』に担当職員からのコメントが添えられ、様子がよくわかると喜ばれています。遠方の家族には状態変化もこまめに連絡しています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回に職員アンケートを行い、職員に意見を聞き、運営に活かせるようにしている。	会議の場では発言に消極的な職員もいますが、現場で共に働いていたことのある管理者には日頃から直接の進言がみられます。また、フロアリーダーが協力し合い、元気がないと感じられる職員には随時面談の機会を設けています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各自が向上心を持って働けるように職場環境に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、研修や勉強会の機会を設け、働きながらトレーニングしていくことに努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会において近隣の同業者と交流する機会を作っている。ネットワーク作りや意見交換などでサービスの質の向上をしていく取り組みをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様の言っていることに耳を傾け、寄り添いスタッフとの関係をつくっていき、御本人様らしく生活出来るように、御家族様と連携を取っていきながら、安心を確保するようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から会話をする機会をもち、困っていることや不安な事が無いかな、聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に本人と家族がホームに対して何を望んでいるのか伺い、計画書を作成した際に共有している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が出来る事を見極め、出来るという達成感をたくさん感じていただけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時やホームからの通信で御本人様の様子を伝え、スタッフとの信頼関係が築けるように努め、行動にも参加して頂ける様に声をかけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居されてからも御本人が大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないようご家族様にも協力して頂き、支援に努めている。	新規入居者のもとへ「最近顔を見ないけど…」と心配して訪れる知人や友人が増えています。年賀状を出す支援やお正月に自宅でゆっくり過ごす人、畑の野菜作りや草取りの継続、年に一度の餅つきに指南を行う人もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	同じフロアだけでなく、他フロアも含め利用者同士の関係を把握し、孤立しないように努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談・支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしい生活をして頂けるよう家族から頂く情報や利用者の様子をもとにして本人本意に検討している。	アセスメントは3ヶ月ごとに見直し、担当ごとに『気づきシート』へ記載しています。“ケアに対する要望や想いを実際に聞いてみる。”といった項目で、本人の言葉や細かい気づきが記録され共有化しています。新規利用者には毎日のようにアセスメントを行い、理解を進めています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族にも協力して頂きながら情報を聞き、サービスの経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議でのスタッフ同士の意見交換の中からも情報を取り入れ、共通した把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	同じフロアだけでなく、必要な関係者の意見やアイデアも入れつつ、現状に即した介護計画を作成している。	3ヶ月ごとに各階リーダーも同席するユニット会議にて、ケアプランチェック表と気づきシートをもとにカンファレンスを行っています。各ユニットの計画作成担当者がプラン化したものをケアマネージャーがチェックし、家族に提示して意見や要望を聞いています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録、ケア日報をもとに、カンファレンスを行い、介護計画の見直しにも活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	御本人様・ご家族様の思いを受け止め、柔軟な支援やサービスに取り組めるように努めていく。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアの方と、定期的に連絡をとり、ホームに来て頂き、利用者様と楽しむことができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御本人様と御家族様の希望を聞き、かかりつけ医を決め、適切な医療が受けられるように支援している。	月2回の往診と24時間連絡が取れる体制にあり、6割の人が協力医に変更しています。かかりつけ医の受診は家族にお願いし、結果は受診報告書と介護記録に記載しています。週2回以上看護師の訪問があり、気軽に相談でき異常の早期発見に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師とは、24時間連絡体制を整えており、相談や指示を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	看護サマリーを入院時に作成し情報を伝える。それ以外にも必要に応じて情報を提供している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に説明する時間を設けている。その時以外にも疑問に思われたことに関してはお答えをしている。	契約時に『重度化の指針』として書面をもって説明を行い、看取りの受入れが困難であることへの理解を得ています。緊急時の対応はマニュアルとして職員間で周知しています。状態変化によって家族の気持ちも揺れますが都度相談を重ねていく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全体会議などで緊急時マニュアルをもとに説明を行い、実践力を身につけられるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練において、全職員が身につけられるように努めている。地域との協力体制は今後も課題である。	年2回実施し、地域の防災訓練にも利用者に参加しています。軽度の利用者が増えたこともあり、階段を利用した訓練を重ねた結果、時間短縮ができています。管理者自ら防災研修を受講し、人員の少ない時の避難方法をシミュレーションして職員に伝達しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、プライバシーに配慮した言葉かけをしている。	気づきシートを活用して一人ひとりに合った声かけができています。トイレ内の排泄用品はレースカーテンで目隠しされ、プライバシーへの配慮が視えます。入室では必ずノックして「失礼します」と声をかけようとの指示が徹底され、同性介助の希望にも応えています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	関わる時間を持ち、本人が思いや希望を表したりできるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活ペースを大切に、業務優先にならないように注意を払っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	御本人様と一緒に希望を聞きながら支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の時間はゆっくりと楽しみながら食べられる環境作りを目指している。	朝夕のご飯と味噌汁は各ユニットで作りますが、法人本部のメニューに従い専任職員が1階で調理しています。職員も食卓を囲み同じ食事を摂ることで、ゆったりした時間が担保されています。誕生会には手作りケーキでお祝いし、外出先では新鮮な海の幸を堪能しています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表のもと、食事量や水分量を管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりに声をかけ、口腔ケアを行って頂き、口腔内の清潔に努めている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者のパターンを関わりを持って把握していき、出来る限りトイレ内での排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	自宅で失敗が多かった人も、適切な声かけにより布パンツで過ごせています。失敗をおそれ羞恥心からリハパンを使う人もいますが無理強いせず本人の安心感を優先しています。便秘対策には、薬に頼らず体を動かすことから取り組んでいます。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防として、運動や乳製品を摂って頂いたり、水分(スポーツドリンク)摂取量に注意している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望やタイミングに配慮した入浴をして頂き、その人その人が気持ちよくゆっくり入って頂けるように支援している。	週3~4日をめやすとし、湯は毎日準備し一人ひとり張りかえています。心地よさに向け好みや皮膚の状態に応じたシャンプーや石鹸を使用しています。入浴拒否のある人には時間や人を替えて誘い、時間にとらわれず、入浴したい気分を逃さないよう努めています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣や状況に応じ、気持ちよく休息したり安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用などの把握に努め、服薬の仕方についても一人ひとりにあった対応を心がけている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居時に御家族様に協力をしてもらったセンター方式の用紙をもとに、その方にあった気分転換を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	毎日天気の良い日には外へ散歩に行き、ホームのまわりなど。パターンは決めずに支援をしている。	天気が良ければ毎日散歩に出かけています。「行きたい」想いに寄り添い、海岸での喫煙を楽しむ人もいます。伊豆長岡まで足を伸ばしたり、桜、紅葉と季節を愛でる外出は恒例です。いちご狩りは家族とも楽しめて好評でした。掲示の登山計画に沿って機能訓練に励む利用者もいます。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族様の理解を得ながら御本人様に所持金を持って頂くケースもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御本人様からの要望があった際には、対応するようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく過ごして頂けるような空間作りを目指している。	食事とくつろぎのスペースが分けられ、取組んだぬり絵作品が誇らしげに掲示されています。トイレには『お手洗い』『トイレ』『便所』の表示があり、個々に馴染んだ呼び方ができています。清掃は利用者で行い、感染症予防のためコンタクトポイントは一日に二度消毒されています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人ひとりの居場所作りはまだ課題はあると思う。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に御本人様を使い慣れたものや、慣れ親しんできたものを持って来て頂ける様、家族に伝えている。	ベッドの向きや箆笥の位置は、在宅での自室と重なる配置とし、落ち着くまでは環境面に配慮しています。愛犬との暮らしを再現するかの様に、思い出の写真やぬいぐるみに囲まれた居室を笑顔で案内してくれる人もありました。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様同士の関係で「できること」「わかること」を活かしきれない所がある。		